

東京坂道ポタ2しおり

コース沿いにある様々な事柄を紹介いたします。全ては紹介しきれませんが・・・
ファンライイド誌・ミキ的東京坂道ポタ2しおり・3・2・1の順になります

コース： 山の手線黒目駅＞庭園美術館＞行人坂＞目黒清掃工場＞茶屋坂＞恵比寿ガーデンプレイス＞ヒール坂＞天現寺橋交差点＞青木坂＞奴坂＞有栖川宮記念公園＞一本松坂＞狸坂＞紺屋坂＞六本木トントンネル＞青山公園＞青山墓地＞明治神宮外苑・絵画館

庭園美術館

昭和8年築の朝香宮邸を利用した美術館。アールデコ様式の優雅な建物自体が美しい。内装を眺めるだけで楽しいです。今回のスタート地点です。

国立自然教育園

庭園美術館に隣接する、国立科学博物館付属の公園。樹齢400年を越えるシイや、カシの大木が生い茂る。都会の中で手つかずの自然が残る。

行人坂

この坂の由来は1624年にまで遡ります。当時この辺り一体にいた不良の輩が悪行を重ね、周辺住民に大変な迷惑をかけてきました。そこで徳川家が奥州(山形県)にあった大海法師を呼び寄せ大円寺(坂下にあります)を開山させ、不良の輩を一掃しました。その大円寺には『行人』が多いたため江戸市民がそう呼ぶようになったといいます。都内有数の坂。本気で登ったら一番んどいです・・・
今回は下りですが、人通り・車が良く通るので注意して下さい。

権の助坂

行人坂に平行している坂。江戸時代に年貢の徴収の緩和を領主の訴え、捕らえられた名主の権の助。彼が死出の前に我が家を見たいといい連れて来られた事からこの名がつく。

目黒川

春になると桜が満開！桜並木をのんびり池尻の辺りから目黒方面へ走ると、とても気持ちよいです。

茶屋坂

有名な落語「目黒のさんま」舞台の御茶屋さんがあった場所です。

ですが、本当に秋刀魚を出したかどうかは定かではありません。

付近は高級住宅地や大使館、旧家等が建ち並び、静かな雰囲気を感じてます。

茶屋坂の入口には「茶屋坂の清水碑」という碑があります。

また茶屋坂を路なりに昇って行くと突き当たり、右に折れると広重画の名所江戸百景より「爺々が茶屋」の浮世絵が写真パネルと説明文付きで掲示されています。

この坂上に百姓彦四郎が開いた爺々が茶屋があったことからこの名がつけられたようです。

この近くの公園で30分ぐらいい休憩するので、興味あるかは見てみて下さい。

今回の登り坂で一番ハードです！

恵比寿ガーデンプレイス

これが出来た事により恵比寿の風景が変わりました。映画館は割と通好みの映画をやるようになって。方向性がわけわからなくなってきた写真美術館もあります。

ビール坂

ファンライイド誌東京坂道ポタ2しおり・2
まんまです。昔恵比寿ビールの工場が坂沿いにあったからだからそうです。この坂沿いのラーメン屋さん、「ちよろり」はさっぱりしていて美味しいです。

聖心女子大学近辺

この辺りの建物は感じの良い建物が何軒かあります。
また麻布10番と並んで、都会の中での生活を感じられる空間です。

青木坂

この道の近くに旗本青木家があったのが由来です。別名 富士見坂とも呼ばれ、坂の上からの眺望は昔は素晴らしいそうです。坂上にはフランス大使館があり、近所には洒落たオーブンカフェがあります。ゆっくり急がず、登りましょう。

奴坂(やっこざか)

この坂名の由来の説の一つは、奴(やっこ)が住んでいたから。奴(やっこ)とは...?
江戸時代、武家で雇われていた雑用専門の人達のことをはたらく下男を『奴』、といったそうです。今でこそ個酒落た町で知られる麻布ですが江戸時代の麻布界隈は、江戸の郊外で大名家の下屋敷などが点在していました。ですから、このあたりの屋敷ではたらく人達も多かったのかも知れません。

有栖川宮記念公園

高松宮殿下が昭和9年1月故有栖川宮威仁親王の命日にちなんで御用地11,000坪を公園用地として開与され、有栖川宮記念公園と命名し開園した。

都心の閑雅な地であり丘陵より溪谷を下り、池畔に至る地形の変化と、鬱蒼とした樹木は日本古来の林泉式の高雅な自然趣味の庭園となっています。都会の小さなオアシス。今回のお昼はここでとります。

一本松坂

この坂、名前の由来はご覧の通り、一本の松があるからですが、この松信じられないほど昔からこの場所に『居る』そうです。

天慶2年西暦939年ごろ、源経基が平将門を討ち果たし、その帰り、このあたりの民家に泊まったそうで、翌日出立の時、この松の木に冠装束を掛けたというのです。

今の松はその当時からのものでなく、3回の植え継ぎをしたものなのですが、一千年の時を超え今なお残る松、もはや『木』ではなく、麻布の『神様』に近い存在・・・

狸坂 > ファンランド誌東京坂ランク・3

名前の由来は、この辺りに人を化かす狸が住んでいたからだそうです。昔には想像できなかった現代の世界。

逆をいえば今からは想像できなかい世界が、この『狸坂』にあったかも知れません。狸が人を化かす.....、そんな世界を心の奥底で想いながら....

句配は結構きついです。坂下は車が良く通ります。注意して降りて下さい。

狐坂 > ミキ的東京坂ランク・3

何故か解説がどこにもない・・多分由来は狸坂と同じと思われています。

狸坂と対を成す構成になっています。

句配はきつくないですが、200mぐらあります。

紺屋坂 > ミキ的東京坂ランク・3

これも解説を見つけられませんでした。紺屋 > 染め物屋さん。

名前の由来はこんなところでしょうか？

青山墓地

ここも春になると桜の名所として有名です。

また様々な方が眠る事でも知られています。志賀直哉・尾崎紅葉・吉田茂のお墓に交じり、忠犬八子公のお墓もあります。

冬なのに怪談

タクシーに乗った女性が『青山墓地の手前まで...』しかし、墓地につくと乗せたはずの女性がいない。座っていたあとがピシヨリと濡れていた。あまりにも有名な話。

しかし、一番はじめに語られた青山墓地の女幽霊は青山墓地が目的地ではなく、青山墓地から乗ったという話なのだそうです。

1932年10月3日の報知新聞に掲載された記事です。タクシー運転手のYさんは、小雨の降る深夜、青山墓地付近で22、23歳の女性を下谷まで乗せた。ある家の門の前で女性は『ここが私の家です。』と言って、料金を払わずに降り、門の中に消えてしまった。運転手は家の人を呼び事情を説明し料金を請求すると『うちの娘は一年前に死にました。今日が一周忌で、供養しているところです。きつと仏が帰ってきたのでしょうか。』と言われ料金を渡された。運転手は気味悪がって交番に駆け込んだ。実話だそうです。

明治神宮外苑・聖徳記念絵画館

明治天皇・皇后を祀る明治神宮に対して、外苑はその事蹟(行った物事)を記念する自的で造営された。絵画館はそのシンボルの存在。

青山通り外苑入口から銀杏並木越しに見える石造りの外観は、周囲の森とあいまって荘重な趣をたたえ、東京を代表する風景のひとつ。今回のゴールです。

今回このおしおきを書くにあたり幾つかの本・webを参考にしましたが、出目を間違えて消去してしまいました。もし出目ご存じな方も、上記の理由でご容赦下さい。